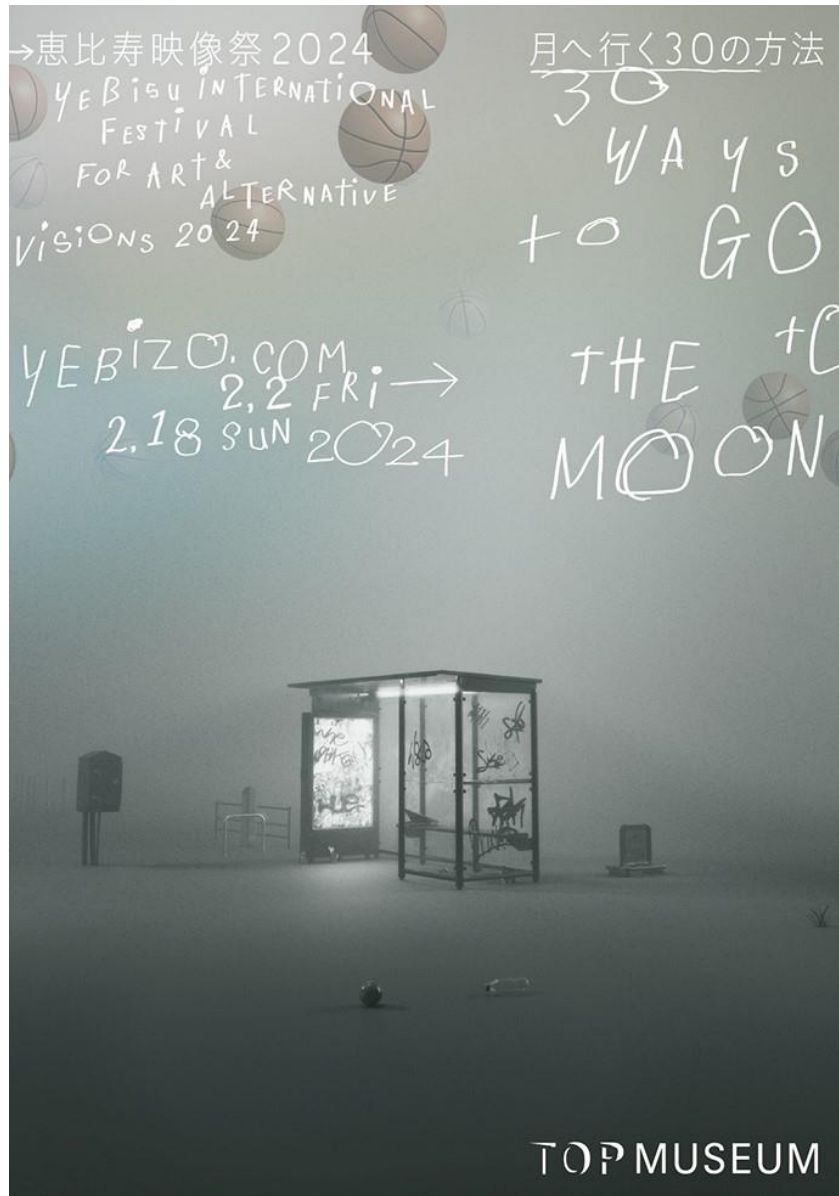


恵比寿映像祭 2024 「月へ行く 30 の方法」



2024年2月2日（金）～2月18日（日）[15日間]
東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場ほか
※コミッション・プロジェクト（3階展示室）のみ3月24日（日）まで

恵比寿映像祭 2024 について

東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社は 2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）の 15 日間にわたり、東京都写真美術館を中心に、恵比寿ガーデンプレイス センター広場など多数の会場で恵比寿映像祭 2024「月へ行く 30 の方法」を開催します。

恵比寿映像祭では、映像という言葉に限定的に用いるのではなく、映像をめぐる様々な選択肢に目をむけ、多様化する映像表現と映像受容の在り方を問い直してきました。芸術と映像が人にもたらすオルタナティブな価値観（ヴィジョンズ）の生成を促し、存続させていくためのプラットフォームとして、発信を続けています。毎回テーマをかかげ、「映像とは何か」という問いを投げかけながら、国内外の映像表現を紹介し歳月を重ねるなかで、映像を取り巻く状況は大きく変化し、映像を規定する枠組みやテクノロジーも多様化しています。

第 16 回を迎える恵比寿映像祭 2024 では、前回から加わった「コミッション・プロジェクト（3 階展示室）」とともに、テーマと結びついた、継続的なプラットフォームとしての恵比寿映像祭の役割をさらに強化していきます。

総合テーマ 「月へ行く 30 の方法」 30 Ways to Go to the Moon

アメリカのアポロ 11 号による月面着陸から半世紀以上が経ち、人々が気軽に月へ行くことも技術的に不可能ではなくなりつつあります。しかし、最先端の科学技術や理論以上に、一見それとは結びつかないようなアーティストたちの思考や実践が、新しい発見や創造につながり、月へ向かうための大きなヒントになるかもしれません。

恵比寿映像祭 2024 では、「月へ行く方法」という命題を、写真や映像を主とした様々な表現によってひも解き、アーティストだけでなく、そこに参加する観客とともに考えていく試みを行います。歴史的作品から現代作品まで、異なる角度からイメージの可能性を探ります。

※総合テーマは、土屋信子「30 Ways To Go To The Moon/月へ行く 30 の方法」展（2018 年）のタイトルより引用

2 階展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、多様な社会的・文化的背景を持った作家たちの映像、写真、資料などを展覧し、そこから導かれる集合的知性によって我々の未来の在り方を探ります。また展示室の中央では、連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを行い、作家と来場者がコミュニケーションを交わし、ともに思考を重ねていく場を生み出していきます。ひとりひとりが出来事の見撃者や体験者となることで、記録の装置（メディア）、記憶の図鑑となるような鑑賞体験を目指します。

地下1階展示室は、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介します。2階を集合知的な空間とするならば、地下1階は、その集合知から学びながらも、さらなる想像力によって飛躍する果てしない未来への旅のスタート地点と言えるかもしれません。

今回の恵比寿映像祭の特徴の一つは、映像の一回性に着目している点です。映像という複製芸術でありながら、反復や非場所という性質とは正反対である一回性にこだわった作品、パフォーマンスやユニークピース、すべてを目撃（鑑賞）することができないような時間的な奥行きや限界に取り組む作品、また映像制作のプロセスに身体的な行為や思考を作用させることで、その場で完成し、消滅していくような作品を紹介する予定です。

そしてこれまで以上に、上映プログラムと展示プログラムを接続し、双方向の横断を試みたプログラムづくりを展開します。

新たな取り組み

1. 対話を生み出すための空間構成とコレクション活用

恵比寿映像祭 2024 では、映像の一回性に着目した観客との対話を生み出す新たな空間構成の展開を試みます。また、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」の文脈から、現代作品と東京都写真美術館のコレクション作品を結びつけることで、作品の背後にある歴史や思想を遡り、現代を考察していきます。

2. 「恵比寿映像祭 2024 コミッション・プロジェクト」

恵比寿映像祭 2023 から始まった、日本を拠点に活動する新進アーティストを選出し、制作委嘱した映像作品を“新たな恵比寿映像祭”の成果として発表する「コミッション・プロジェクト」。恵比寿映像祭 2024 では、前回特別賞を受賞した2名のアーティストである荒木悠、金仁淑（キム・インスク）による特別展示を、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」と連動させながら具現化します。また会期中には、映像表現に通じた国内外の審査委員 5 名によって、第2回コミッション・プロジェクトを委嘱する4名のアーティスト（ファイナリスト）を選出し、その結果を発表します。

3. シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] との連携

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」（2022年開設）と連携し、恵比寿ガーデンプレイスの中心に位置するセンター広場で、ジェネラティブ・アート作品等の特別プログラムの上映を行います。個人によるオンラインの表現と都市空間をダイレクトに結びつけ、映像メディアの都市・社会における可能性を提示します。